群教セ	G12 - 01
	平17.228集

自然に主体的にかかわろうとする意欲を高める生活科指導

── 遊びを通して体全体で自然を感じる活動を取り入れて ──

特別研修員　　長沼　祐子　　（伊勢崎市立境剛志小学校）

《研究の概要》

本研究は、身近な自然を利用し、遊びを通して体全体で自然を感じる活動を取り入れ、自然に主体的にかかわろうとする意欲を高めようとしたものである。具体的には、アウトドアゲームを取り入れた「自然を五感で感じる活動」・遊びづくりを取り入れた「自然と一体となって遊ぶ活動」を行った。これらの活動を通して、今までとは違った自然の見方、感じ方ができるようになり、自然への興味・関心が一層高まるような指導の工夫を行った。

キーワード　〔生活科　遊び　遊びづくり　身近な自然　自然体験　〕

Ⅰ　主題設定の理由

生活科は、自分と身近な人々、社会及び自然に主体的にかかわり、具体的な活動や体験をする中で、感じ、考え、気付くなどして、自立への基礎を養うことを目標としている。

子どもたちは､具体的な体験や活動をする中で、自分自身のよさや得意としていることに気付いたり、自分の生活について考えたりする。こうした経験を繰り返しながら、心身ともに健康でたくましい自己が形成される。これは、生活科の目標である「自立への基礎」を養うことになり、ひいては、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動する「生きる力」の育成につながるものである。

完全学校週５日制が始まり、家庭や地域において、生活体験、社会体験、自然体験、文化・スポーツ活動に子どもたちが主体的に取り組めるような環境を作ることが一層求められている｡しかし、現実は、親の子に対する働きかけや家庭環境によってその充実度に差があらわれてきている。中でも、子どもたちを取り巻く自然環境、地域社会の変化は、子どもたちが直接地域に出て、自然と触れ合い、かかわり合う機会を少なくしている。

自然と触れ合ったり、かかわり合ったりする自然体験は、自然の移り変わりを通して、豊かな感性や知的好奇心をはぐくみ、自然への理解や感謝の気持ちを育成する上でたいへん意義あるものである。小学校低学年での豊かな自然体験は、後に学ぶ学習内容とも関連付けられ、生きる力の根源となると考えられる。

本校２年生の児童の実態をみると、これまでに生活科で地域探検に出かけ、昆虫を見付けたり、草花を摘んだり、木の実を拾ったりして自然にふれる活動を行ってきた。その後、興味をもち図鑑などでさらに調べてみようと行動する児童もいる。一方、その場限りの経験で終わり、自分の身の回りの自然について意識していない児童も見られた。これは、これまでの児童の自然体験の不足とともに、学習の中での自然体験が、表面的であったり、児童の意欲をかき立てるまでに至らなかったりしていたためと考える。

そこで、本研究では、遊びを通して体全体で自然を感じる活動を取り入れることを考えた。

まず、身近な自然の中で、遊びを通して児童が五感を働かせ、自然の不思議さやおもしろさなどを感じる活動を取り入れていくことを考えた。この活動では、児童は自然を身近に感じ、自然の中で遊ぶことの楽しさを味わうことができるとともに、自然に対しての興味・関心を高めることができるようにしていく。

次に、自然に詳しい人々と一緒に、地域の自然を利用して自分たちの遊びをつくる活動を取り入れる。この活動により、児童は自然と一体となって遊ぶ楽しさを味わう中で、自然と触れ合うことの楽しさ、心地よさ、自然のおもしろさや不思議さを体感するとともに、自然を大切に思う気持ちや態度をはぐくみ、主体的にかかわろうとする意欲をもつようにしていく。

以上のことから、遊びを通して体全体で自然を感じる活動を取り入れることによって、児童の自然に主体的にかかわろうとする意欲が高められると考え、本主題を設定した。

II　研究のねらい

遊びを通して体全体で自然を感じる活動（「自然を五感で感じる活動」・「自然と一体となって遊ぶ活動」）を取り入れ、自然とのふれあいを深める支援をしていくことによって、自然に主体的にかかわろうとする意欲が高められることを実践を通して明らかにする。

III　研究の見通し

1　「ふれる・つかむ」過程において、「自然を五感で感じる活動」を行えば、自然の中で遊ぶ楽しさを味わうことができ、自然に対する感性が豊かになり、自然への興味・関心が一層高まるであろう。

2　「追究する・深める」過程において、「自然と一体となって遊ぶ活動」を行えば、自然の中で遊ぶおもしろさを味わい、自然を大切に思う気持ちや態度をはぐくみ、自然に主体的にかかわろうとする意欲を高めることができるであろう。

IV　研究の内容と方法

1　研究の内容

(1)　「自然に主体的にかかわろうとする意欲」とは

本研究では、自然に主体的にかかわろうとする意欲をもった児童の姿を次のようにとらえる。

・自然の美しさや不思議さ、おもしろさに気付いている。
・自然とかかわることを楽しみに感じ、さらにそのことを心地よく感じている。
・自然を大切にしようとしている。
・自然とのふれあい方について学んでいこうとしている。

このような姿は、活動場面における活動の様子や変容、つぶやき、会話に多く見られると考える。また、活動を振り返るカードや手紙などの表現にも、その内面的な姿があらわれると考える。

(2)　遊びを通して体全体で自然を感じる活動とは

児童は、遊びを通して学んだり、様々な技能を身に付けたりする。遊びは、遊ぶ人数や対象、場所によって変化する。見て遊ぶ、作って遊ぶ、触って遊ぶなど様々な遊びの体験や遊びを考えていく活動を通して児童は五感をとぎすまし、感性を豊にしていくことができると考える。

体全体で自然を感じるとは、五感を通して自然を感じ、それを何らかのかたちで表現できることである。表現方法としては、言葉や絵で表す、遊び方を考える、見付ける、作るなどして伝えていくことが考えられる。

具体的には、ア「自然を五感で感じる活動」とイ「自然と一体となって遊ぶ活動」からなる。

ア　自然を五感で感じる活動とは

これは、身近な自然を生かし、自然そのものをよく見たり、聞いたり、においをかいだり、触ったり、感じたりしながら自然に対する感性を豊かにする活動のことである。その活動の内容をゲーム化し、児童同士が競い合ったり、助け合ったりするうちに、活動への関心を高めることができるようにしたものが「アウトドアゲーム」である。本研究で行うアウトドアゲームは、『目をとじると・耳をすませば』『秋さがしビンゴ』『葉っぱジャンケン』『何に見えるかなクイズ』である。これらの活動を通して、今までとは違った自然の見方、感じ方ができ、自然に対する様々な気付きが生まれると考えられる。

イ　自然と一体となって遊ぶ活動とは

この活動は、自分たちの遊びを身近な自然の中で作ることで、自然を利用しながら新たな遊びを発見していくことができることをねらいとしている。本研究では、「あそびのくに」づくりの活動を行い、自然の中で、自然物を利用して遊びづくりを行う。

上記の活動中、活動後は、「見つけたよ！○○」「振り返りカード」やお互いのよいところを評価できるようなカードを使い支援を行っていく。このことを通して、自然とのふれあいの中で見付けた自己のよさや自分と自然とのよりよいかかわり方などに気付くことができるようにし，さらには、自信や意欲をもてるようにしていきたいと考える。

2　研究の方法

(1) 授業実践計画

対　象	伊勢崎市立境剛志小学校　２年　36名（男子18名　女子18名）		
期　間	平成17年10月（全１６時間予定）	単元名	おんたけ山に「あそびのくに」をつくろう
抽出児	【A男】いろいろなことに興味をもち意欲的に活動するが、遊びの中で気付いたことをカードなどに書くことが苦手である。気付いたことを文章や絵に表現できるような助言をしていく。 【B子】観察カードなど丁寧に描き、まじめに活動するが、ダイナミックに活動することが少ない。遊びづくりの活動において、自己の思いや願いがかなうような活動が行えるよう助言をしていく。		

(2) 検証計画

検証項目	検証の観点	検証の方法
見通し１	「ふれる・つかむ」過程において、自然を五感で感じ取る活動として「アウトドアゲーム」を行うことは、自然の中で遊ぶ楽しさを味わったり、自然に対する感性を豊かにしたりし、自然への興味・関心を高めることに有効であったか。	・行動観察（ビデオ写真） ・つぶやき ・会話・カード
見通し２	「追究する・深める」過程において、自然と一体となって遊ぶ活動「あそびのくにをつくろう」を行うことは、自然を生かして遊ぶことのおもしろさを味わったり、自然を大切に思う気持ちや態度をはぐくんだりし、自然に主体的にかかわろうとする意欲を高めることに有効であったか。	・行動観察（ビデオ写真） ・つぶやき・会話 ・カード・手紙

Ⅴ　研究の展開

1　単元の構想

本単元は、学習指導要領の内容（５）「季節の変化と生活」及び内容（６）「自然や物を使った遊び」に基づいて構成している。できるだけ身近な自然とかかわることを念頭に置き、その場所にある自然（樹木、草花、木の実、木の葉、石、土、光、影、風など）を五感を通して感じ取り、働きかけ、遊ぶ活動ができるようにした。まず、五感を働かせる活動に、「アウトドアゲーム」を取り入れ、ゲーム化した自然体験活動を行っていく。次に、自然と一体になって遊べる「あそびのくに」づくりの活動を行う。この活動の中では、自然に詳しい人々とのふれあいを取り入れていくことにより、自然を大切にしていこうという気持ちや態度をはぐくむことができると考える。

2　目標及び評価規準

目標	身近な自然で遊ぶことを通して、自然とふれあいながら遊ぶことの楽しさを味わい、その遊びを工夫することで、身の回りの自然に関心をもち、みんなで遊びを楽しむことができる。		
	生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
内容のまとまりごとの評価規準	身近な自然を観察したり季節や地域の行事にかかわる活動をしたりしようとしている。（内容５） いろいろな遊びに関心をもち、楽しく遊ぼうとしている。（内容６）	四季の変化や季節に応じて、自分たちの生活を工夫したり、楽しくしたりできる。（内容５） 身の回りの自然や身近にある物を使うなどして遊びを工夫し、みんなで楽しむとともに、それを表現できる。（内容６）	四季の変化や季節によって生活の様子が変わることに気付いている。（内容５） 身の回りの自然や身近にある物を使うなどして遊べることや、みんなで遊ぶと楽しいことに気付いている。（内容６）
単元の評価規準	①身の回りの自然に関心をもち、楽しく遊ぼうとしている。 ② 友達とのかかわりを深めたり、広げたりしようとしている。	①自然と一体になり、夢中になって遊ぶことができる。 ②楽しい遊びにするために、自然の素材を生かした遊び方を工夫することができる。	①季節の変化や身近な自然にかかわって遊ぶ楽しさに気付いている。 ②友達の発想や工夫のよさ、みんなで遊ぶ楽しさなどに気付いている。

3　指導計画（全１６時間予定）

【単元の評価規準との関連】

過程	主な学習活動（時間）	支援及び留意点	学習活動における具体的な評価規準	評価方法
ふれる・つかむ	１　おんたけ山へ行こう（４） ・おんたけ山に行き、虫探しや木々の様子に目を向けながら楽しく遊ぶ。 ・活動を振り返りカードに書く。 ・夏のおんたけ山との違いを話し合い、季節の移り変わりを感じ取る。 ・季節が変化してきている様子を探し、カードに書く。	・７月の生き物探しのときに記録したカードを提示し、そのときの様子を思い出せるようにする。 ・体験した活動の振り返りをし、７月に書いたカードと比較しながら、カードに書くことで、季節の変化に目が向けられるようにする。 ・季節の変化を感じ取れるように、教室には、季節ごとの写真を掲示しておく。 ・活動の範囲や時間のめやす、安全面の配慮をする。	【関①】 草花、木々、虫に目を向け遊ぼうとしている。 【思①】 草花、木々、虫に目を向け楽しく遊ぶことができる。 【関①】 季節の変化に目を向け、秋を探そうとしている。 【気①】 風の涼しさや木々・虫の様子などから季節の変化に気付いている。	行動 会話 カード つぶやき 行動 会話 カード つぶやき
	２　おんたけ山で「アウトドアゲーム」をしよう（２） 【見通し１】	・五感を働かせるような「アウトドアゲーム」を取り入れる。 ・自然について様々な気付きをしている児童を	【関①】 ・アウトドアゲームを夢中になって楽しんで	行動 会話

	・『目をとじると・耳をすませば』『秋さがしビンゴ』のアウトドアゲームを行い、自然の中で遊ぶ。 ・感じたことを振り返りカードに書く。	賞賛し、活動の意欲が高められるようにする。 ・活動したことや見付けたことをカードに記入することによって、感じ取ったことを振り返れるようにする。 ・活動の範囲や時間のめやす、安全面の配慮をする。	いる。 【気①】 季節の変化やおんたけ山の自然の様子について気付いている。	カード つぶやき
	３「アウトドアゲーム」でもっとあそぼう　（２） ・『葉っぱジャンケン』『何に見えるかなクイズ』のアウトドアゲームをし、児童同士で遊びを広げる。 ・活動したことや見付けたことをカードに書く。 ・おんたけ山の自然を生かした隠れ家（見本）を見る。	・前時での学習を生かし、さらに自然に親しみながら活動できるように、助言する。 ・児童が遊びを広げていける「アウトドアゲーム」を行い、児童自身が活動を工夫できるようにしていく。 ・活動に結びつけることができない児童へは、友達の活動の様子を見るように働きかけたり、やってみたいことを認め励ましたりしながら、自分の思いをもって活動できるように助言する。 ・活動したことや見付けたことをカードに記入することで、感じ取ったことを振り返られるようにする。	【思①】 アウトドアゲームを通して自分の遊びを広げることができる。 【気①】 自然の中で遊ぶ楽しさに気付いている。	行動 会話 カード つぶやき
追究する・深める	**４　おんたけ山に「あそびのくに」をつくろう（７）** **【見通し２】** ・「あそびのくに」の計画を立てる。 ・グループごとに、必要なものを準備する。 ・グループで協力できるよう、約束を決める。 ・自分たちの計画を自然に詳しい人たちに見せ、アドバイスをしてもらう。 ・「あそびのくに」を作る。 秘密基地、ブランコ、ターザン、探検隊、森のおうち、おみせやさん、看板づくりなど ・活動の前にめあてカードを書き、活動の見通しをもつ。 ・片付けをする	・群馬県環境森林局「フォレストリースクール」の緑のインタープリター（自然に詳しい人）との打ち合わせをし、協力の依頼をしておく。 ・自分の思いが実現できるように同じ思いをもった児童同士でグループをつくる。 ・それぞれのグループごとに、「あそびのくに」を作る準備について話し合い、絵や文で表わすことで、何を作りたいか意識できるようにする。 ・「あそびのくに」で使うものについては、自然のものを使うように助言する。 ・自然に詳しい人たちには、「あそびのくに」を作る活動を児童と一緒にする中で、自然を大切にする気持ちが高められるような会話を心がけてもらう。 ・友達との協力の仕方について指導する。 ・カードには、今日のめあて、取組の様子、友達のよさについて記入できるようにしていく。 ・活動の範囲や時間のめやす、安全面の配慮をする。	【関①】 「あそびのくに」を作るための準備や方法を考えようとしている。 【関②】 友達とのかかわりを深めたり、広げたりしようとする。 【思②】自然のものを生かし、工夫して遊ぶことができる。 【気②】友達の発想や工夫のよさに気付いている。	計画カード 話合いの様子 行動 会話 行動 つぶやき カード
	５　ふりかえろう　（１） ・おんたけ山での活動を振り返り、感想を発表する。 ・手紙を書く。	・今までの活動を想起できるよう、自然への思いが深められる投げかけをする。 ・「森の妖精への手紙」を書くことで、今までの活動を個々に振り返れるようにする。	【関①】 自然を大切に思い、親しみを感じている。	会話 発言 手紙

Ⅵ　研究の結果と考察

１　「ふれる･つかむ」過程において、自然を五感で感じ取る活動として「アウトドアゲーム」を行うことは、自然の中で遊ぶ楽しさを味わったり、自然に対する感性を豊かにしたりし、自然への興味･関心を高めることに有効であったか

自然を五感で感じる活動として以下の「アウトドアゲーム」を行った。その際の児童の様子や変容、振り返りカードなどから考察していく。

(1)『目をとじると・耳をすませば』

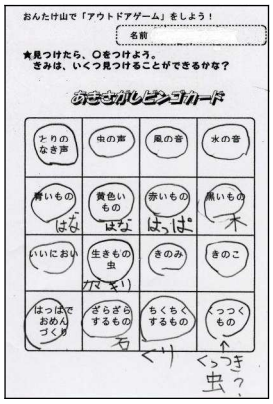
児童は、１分間、目をとじて、耳をすまし、おんたけ山の中に身をおいた。児童は、「鳥のさえずり」「川の流れる音」「風の音」「虫の声」など小さな音を聞き取ることができた。芝生に寝ころび、同様の活動を行うと、「背中がチクチクする。」「草のにおいがする。」「気持ちいい。」という体全体で感じたことを口々に発言していた。その後の活動でも、小さな音を聞こうと耳を傾けたり、においをかごうとしたりする姿がいろいろな場面で見られた。このことから、このゲームでの経験により、視覚だけでなく、聴覚、触覚、嗅覚などの五感を使って自然を感じる感覚にふれることができたと考える。

(2)『秋さがしビンゴ』

この活動では、一人一人が視覚、聴覚、触覚、嗅覚などの観点が書かれたビンゴカードを持ち、おんたけ山の様子について秋さがしを行った。約95%の児童がビンゴカードのチェック欄(資料１)をすべてマークすることができた。活動後の振り返りカードには、「ミカンのにおいのする葉っぱ

があったよ。」「小さな青い実がなっていたよ。」「チクチクするものを見つけたよ。」という感想があり、五感を使って活動していた様子が伺えた。この活動により、児童は、ふだん気付かなかった小さな自然にも目を向けたり、発見できた楽しさを味わったりすることができたと考える。

資料1　ビンゴカード



(3)『葉っぱジャンケン』

児童は、種類、形の違う葉を５種類集めてきた。「ギザギザがたくさんある葉っぱの勝ち」というように教師が示す条件によってジャンケンを行った。児童は、自分の持っている葉の中から一番それに近いものを出し合い、じっくり観察し合って勝負を決めていた。（写真１）この活動後も、ちょっとした時間にいろいろな葉っぱを集め、葉っぱジャンケンを楽しむ姿が見られた。このゲームを通して、児童は、ふだん見慣れている葉にも、いろいろな形、色、においなどがあることに楽しみながら気付くことができたと考える。

写真1　アウトドアゲーム「葉っぱジャンケン」

(4)『何に見えるかなクイズ』

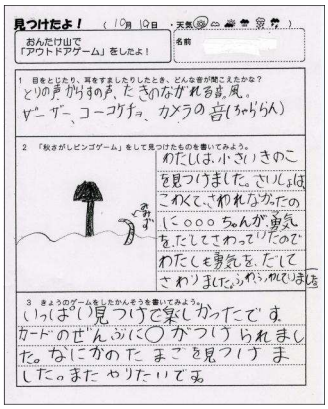
児童は、２枚の目玉シールを持ち、おんたけ山の木や岩などの自然物に貼り付け、生き物に見立てて、クイズを作った。この活動の後も、児童は木々や葉、岩などの様子をよく観察し、動物の顔に見えるなど自然物の特徴をつぶやいている児童がいた。この活動を通して、自然の創り出した形に想像力を加え、新たな見方ができるようになったと考える。

Ａ男は、『秋さがしビンゴ』の活動後に書いたカードに、「ざらざらしている葉っぱを見付けて、その葉っぱでお面を作った。いろいろなものを見つけられて楽しかった。もっといっぱいビンゴがしたい。」と書いていた。カードに見付けたことや感想を書くことが苦手なＡ男も、この活動後は、短時間で記入することができた。また、『何に見えるかなクイズ』では、木の樹皮の凹凸の様子を上手に伝え、その木を「サル」に見立て、クイズを出すことができた（写真２）。その鋭い観察力をほかの児童からも認められ、うれしそうな表情をしていた。これらの活動を通して、これまで自分の気付きを表現することが苦手だったＡ男は、自然についていろいろなことに気付いたり、発見したりする楽しさを実感したことで自分の思いを文や言葉で具体的に表現することができたと考える。

写真2　Ａ男の作った『何に見えるかなクイズ』

Ｂ子は、『秋さがしビンゴ』後のカードに、「きのこを勇気を出してさわりました。ふわふわしていました。」と書いていた（資料２）。また、『何に見えるかなクイズ』後のカードには、「目を付けると、いろいろなものに変身できるなんてすごいです。いろいろな木やいろいろな色の葉っぱがあったことが分かりました。」と書いていた。Ｂ子の、勇気を出して触ろうとした記述や、様々な木や葉の特徴をよく見るようになった記述から、自然に対する見方や感性が豊かになり、自然への興味・関心が高まっていることが伺えた。

資料2　Ｂ子の見つけたよカード



学級全体の児童の様子をみると、上記の(1)～(4)のアウトドアゲームを体験するにしたがってふだんは、気にも留めない自然物に目を向けたり、自然が形づくるおもしろさや不思議さに興味・関心を示す発言が多くなっていった。また、児童の振り返りカードの統計を取ると、「おんたけ山に行くのは楽しいですか。」「自然の中からいろいろなものを発見することは、楽しいですか。」のどちらの問いに対しても「たいへん楽しい。」と100％の児童が答えていた。

以上のことから、自然を五感で感じ取る活動と

して「アウトドアゲーム」を取り入れたことにより、児童は、自然の中で遊ぶ楽しさを味わいながら、自然に対する感性を豊かにすることができたと考える。これらの活動は、自然に対する興味・関心を高めていく上で有効であったと考える。

2　「追究する･深める」過程において、自然と一体となって遊ぶ活動「あそびのくにをつくろう」を行うことは、自然を生かして遊ぶことのおもしろさを味わったり、自然を大切に思う気持ちや態度をはぐくんだりし、自然に主体的にかかわろうとする意欲を高めることに有効であったか

「あそびのくにをつくろう」の活動では、自分のやってみたい遊びごとにグループ編成を行った。児童は、落とし穴つき迷路、ターザン・木の秘密基地、お店屋さん、秘密基地・花の広場、落とし穴、お化け屋敷迷路の６つのグループに分かれ、計画を立てた。

「あそびのくに」を作る際には、群馬県環境森林局フォレストリースクールから緑のインタープリターを講師として迎え、グループのアドバイス役として参加してもらった。この活動の中で、木の皮を使って看板づくりを考えた児童は、「落ちている木の皮は、使ってもいいけど、木に付いている皮を取っちゃいけないんだよ。洋服をぬいで裸になっちゃうのと同じなんだって。」とインタープリターに教えてもらったことを話していた。また、葉っぱのお皿や飴、木の実の笛など児童が考えた以外にも自然物を使った楽しい遊びをたくさん教えてもらうことができた。その後の振り返りカードの記述からも、この活動の中でのインタープリターとのふれあいを通して、自然の大切さや自然の不思議さ、おもしろさなど会話を通して伝えてもらえたことが伺えた。

Ａ男は、ターザン・木の秘密基地グループに入った。計画カードには、木の上に秘密基地を作り楽しくターザンをしている様子の絵を描くことができた（資料３）。実際、Ａ男たちのグループは、大きな木にロープをしばり、ターザンごっこを楽しんだ。Ａ男たちは、何回か順番にロープにぶら下がったが、腕の力がなくて落ちてしまう児童がいたので、手頃な太さの丸太を探してきてロープにしばり、ブランコを作った。Ａ男は、木に登り気持ちよさそうに上からの眺めを楽しんでいた（写真３）。Ａ男は、別のグループの友達に、ブランコの乗り方や木登りの仕方を親切に教えることができた。活動後に書いたカードからＡ男は、「みんなで協力して作ることができて楽しかった。また、作ってみたい。森の中にあんな大きな木があってびっくりした。木を大切にしたい。」と書いていた。木を使った遊びを満喫し、木の大きさや自然の大切さに改めて気付いたことが伺えた。この活動を通して、Ａ男は、自然の中で遊ぶ楽しさや心地よさを実感できたことで、友達にその思いを伝えたり、カードに記述したりすることができたと考える。

資料３　Ａ男の計画カード

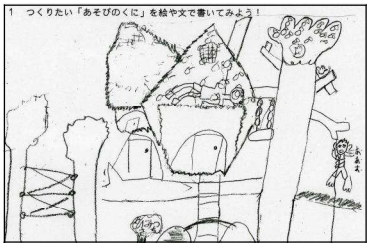
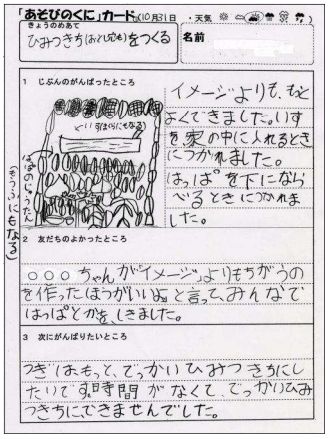


写真３　Ａ男のグループが作った「あそびのくに」

Ｂ子は、秘密基地・花の広場グループに入った。自分たちだけの秘密基地を作ろうと話合いも率先して行っていた。実際、Ｂ子たちのグループは、竹や笹で秘密基地と落とし穴を作った（写真４）。基地の中には、枯れ葉を敷き詰め、葉っぱのじゅうたんにしたり、丸太を探してきて椅子や枕にしたりしていた。Ｂ子は、竹や笹を何度も運び、基地の屋根の笹が落ちないように工夫したり、落とし穴を一生懸命に掘ったりしていた。完成後は、服の汚れも気にせず、枯れ葉のじゅうたんの上で、気持ちよさそうに寝そべったり、何度も落とし穴に落ちたりしてうれしそうな喜びの声をあげていた。活動後に書いたＢ子の

写真４　Ｂ子のグループが作った「あそびのくに」

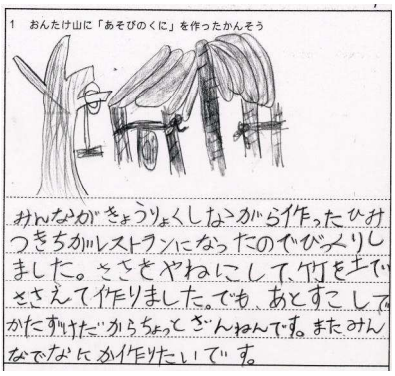
資料４　Ｂ子の活動後に書いたカード



カード（資料４）には、「次は、もっと大きい秘密基地を作りたい。」と活動への意欲をみせていた。この活動を通して、自然の中の遊びに対して尻込みしていたＢ子が、自然の中で遊ぶことの楽しさを実感できたことで、自己の思いや願いをかなえるような活動を行えるようになった。

学級全体の児童の様子をみると、どの児童も、振り返りカードの記述から、活動を通して、自然の中で遊ぶことの楽しさや友達と協力することの大切さ、協力して作り上げたときの感動を感じている様子が伺えた（資料５）。また、クラスの65%以上の児童が、放課後や休日に家の人を招待して「あそびのくに」へ行ったという結果が得られ、保護者からは、資料６のような手紙をいただいた。

資料5　他の児童が活動後に書いたカード



さらに、「あそびのくに」を片付ける活動では、Ｂ子から「おんたけ山に恩返しをしよう。」という発言があり、使った木々や竹、笹を種類ごとに集めたり、ごみ拾いをしたりした（写真５）。

資料６　保護者からの手紙

昨日、家族でおんたけ山のあそびのくにを見せてもらいました。自分たちのグループはもちろん、他のグループの物も詳しく説明してくれました。家では見られない元気な生き生きとした様子で誇らしげに案内してもらいました。

写真5　片付けをしている様子

「いつまでもきれいなおんたけ山でいて欲しいものね。」とつぶやきながら一生懸命片付けをしている児童もいた。このことから、自然を大切に思う気持ちが育ち始めるきっかけになったと考える。

以上のように、自然と一体となって遊ぶ活動を行ったことは、自然を生かして遊ぶことのおもしろさを味わい、自然を大切に思う気持ちを育て、自然に主体的にかかわろうとする意欲を高めることに有効であったと考える。

Ⅶ　研究のまとめと今後の課題

○　身近な自然を利用し、遊びを通して体全体で自然を感じる活動を取り入れたことは、自然をより身近に感じ、自然の中で遊ぶことの楽しさ、自然と触れ合うことの心地よさを味わわせることができた。その結果、自然に対する興味・関心は高まり、自然に主体的にかかわろうとする意欲を高めることができたと考える。

○　「自然と一体となって遊ぶ」活動を行ったあと、「森の妖精への手紙」を書く活動を行った。どの児童も、「遊ばせてくれてありがとう。」という内容のお礼の手紙を書いていた。「また、遊びに行かせてね。」という手紙からは自然の中で遊ぶ楽しさを実感し、再び遊びに行きたいという気持ちを抱いていることが分かった。また、自然を守るために自分たちができることとして「ごみを拾いに行きます。」「おんたけ山で捕まえた生き物を大切に育てます。」というように考える児童が増えた。

○　地域の自然を生かした学習活動を展開していくために、生活科全体の指導計画作成に当たりさらに見直しを図っていきたいと考える。

〈参考文献〉

・小林　毅　著　『森の楽校』
　山と渓谷社(2004)
・『ネイチャーゲーム指導員ハンドブック』
　ネイチャーゲーム研究所(2004)
・『森林環境教育プログラム事例集』
　全国森林組合連合会(1999)
・『森林環境教育プログラム事例集②』
　全国森林組合連合会(2002)
・『ポートフォリオ評価を活用した指導の改善、自己学習力の向上及び外部への説明責任に向けた評価の工夫』
　国立教育政策研究所(2004)
・嶋野　道弘　著　『評価と学習カード　生活科』
　小学館(2004)